

## 第 4 章

この章では、付き添い者のうち、病室に泊まり込んで付き添っていた人を対象に、付き添い入院を選択することになった経緯、理由、医療機関の対応、付き添い中の状況などについて調査した内容を報告する。

### 【付き添い入院の希望について】

付き添い入院を希望する・しない以前に「付き添いが必須だった」人が全体の7割を占めた。年齢3区分別（乳児／1歳未満、幼児／1～6歳未満、児童／6歳以上）で見ると、「付き添いが必須だった」割合が最も高かったのは乳児で、最も低かったのは児童だった。

付き添いの形態別で「付き添いが必須だった」割合をみると、「付き添い入院」が7割強だったのに対し、「付き添い入院と面会の両方」では半数に止まった。

入院先の病院の種別で「付き添いが必須だった」割合をみると、最も高かったのは「それ以外の病院」で、次いで高かったのは「大学病院」だった。「子ども病院」は「付き添いを希望した」割合のほうがやや上回った。

### 【付き添いを希望した理由について】

付き添いを希望した理由は「子どもが一人にいるのはかわいそうだった」が8割を超え、最も多かった。子どもの年齢区分別でも同様の傾向だった。

### 【付き添いを希望しなかった理由について】

付き添いを希望しなかった理由で最も多かったのは「きょうだい児の世話がいった」で、全体の7割を占めた。

### 【病院からの付き添い要請について】

付き添い入院していた人のうち、8割弱は病院から付き添い入院を要請されていた。

年齢3区分別（乳児／1歳未満、幼児／1～6歳未満、児童／6歳以上）で付き添い入院を要請された割合をみると最も高かったのは乳児（8割強）だった。

付き添いの形態で見ると「付き添い入院のみ」のほうが「付き添い入院と面会の両方」よりも付き添い入院を要請されていた割合が高かった。

入院先の病院の種別で見ると「大学病院」や「それ以外の病院」では付き添い入院を要請されていた割合が8割以上を占める一方、「子ども病院」では5割強に止まった。

### 【付き添いの理由についての説明の有無】

付き添い入院していた人のうち、泊まり込んで付き添う理由についての説明を受けていたのは約半数だった。また、病院から付き添いを要請された人のうち説明を受けていたのは6割弱だった。

**【付き添いの理由について説明された内容】**

付き添う理由について「子どもが自分で身の回りのことができないから」、「親と一緒にいたほうが子どもが安心するから」という説明を受けた人がともに6割前後いて、最も多かった。一方で「マンパワー不足で看護師がすべての世話ができないから」という説明を受けた人も1割強いた。

年齢3区分別（乳児／1歳未満、幼児／1～6歳未満、児童／6歳以上）で、付き添いの理由の説明内容をみると、「親と一緒にいたほうが子どもが安心するから」という説明を受けていたのは乳児が5割強、幼児が6割強、児童が7割弱と、子どもの年齢が上がるほど割合が上昇した。また、「子どもが自分で身の回りのことができないから」という説明を受けていたのは幼児が7割弱と最も多く、児童が4割弱と最も少なかった。

**【付き添い願い書の提出について】**

付き添い入院していた人のうち、7割は付き添い入院を申請する「付き添い願い書」を提出していた。この傾向は、年齢区分別、病院の種別、付き添い要請の有無においても大きな違いはみられなかった。

**【付き添い者の限定について】**

病院から付き添い者が限定されていたのは6割で、そのうち最も高かったのは「両親のみ」で3割を占めた。

病院の種別でみると、大学病院やそれ以外の病院の約半数は、付き添い者を限定していなかった。子ども病院では限定していない割合が低く、「両親のみ」に限定している割合が高かった。

「コロナ前（2019年12月以前）」と「コロナ後（2020年1月以降）」で付き添い者を限定しているかどうかをみると「コロナ後（2020年1月以降）」は付き添い者を限定する割合が高まっていた。

**【主な付き添い者について】**

付き添い者が限定されていなかったり、母親に限定されていたりすることは少ないにもかかわらず、入院中の主な付き添い者は「入院児の母親」が9割強を占め、圧倒的に多かった。

**【付き添い者の交代について】**

付き添い入院中に交代してくれる人がいた割合は6割を占める一方、交代者がいない割合も3割弱いた。

付き添いを交代してくれる人は「配偶者・パートナー」が最も多く、約4割を占めた。「コロナ後（2020年1月以降）」では付き添いが交代できない割合が高まっていた。

## 10 付き添いの背景

### ■ 付き添い入院希望の有無

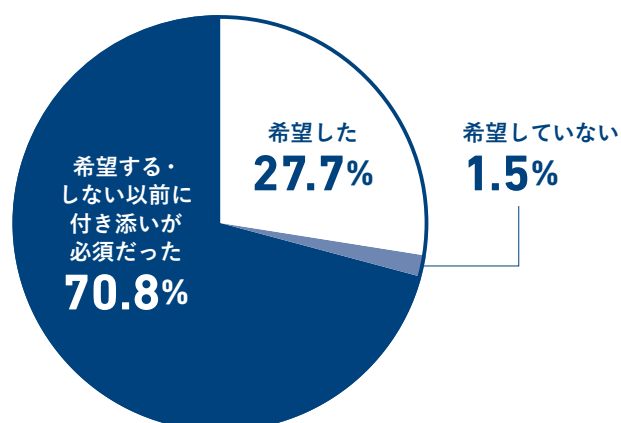
付き添い入院を希望していたかについては「希望する・しない以前に付き添いが必須だった」という回答が70.8% (n = 2,322/3,282)を占めた。「希望した」は27.7% (n = 910/3,282)、「希望していない」は1.5% (n = 50/3,282)であった。

年齢3区分別にみると「付き添いが必須」の割合は、乳児(1歳未満)76.9% (n = 820/1,067)、幼児(1歳~6歳未満)73.2% (n = 1,185/1,619)、児童(6歳以上)53.2% (n = 317/596)だった。「付き添いを希望」の割合は、乳児21.7% (n = 232/1,067)、幼児25.5% (n = 412/1,619)、児童44.6% (n = 266/596)、「付き添いを希望しない」は乳児1.4% (n = 15/1,067)、幼児1.4% (n = 22/1,619)、児童2.2% (n = 13/596)であった。

付き添いの形態別にみると、付き添い入院の場合、「付き添いが必須」76.0% (n = 1,987/2,614)、「付き添いを希望」23.1% (n = 604/2,614)、「付き添いを希望しない」が0.9% (n = 23/2,614)であるのに対し、付き添いと面会の両方の場合、「付き添いが必須」が50.2% (n = 335/668)、「付き添いを希望」45.8% (n = 306/668)、「付き添いを希望しない」4.0% (n = 27/668)であった。

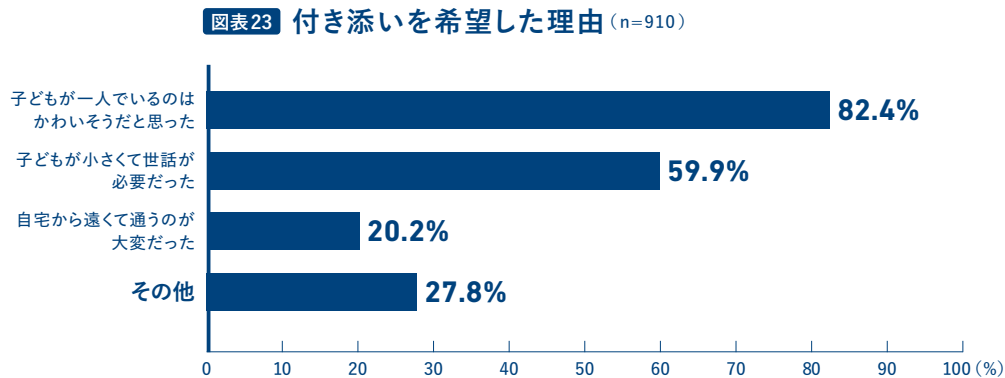
病院の種別にみると「付き添いが必須」の割合は、大学病院71.6% (n = 1,021/1,427)、それ以外の病院79.2% (n = 1,057/1,335)で高く、子ども病院では45.8% (n = 226/494)であった。「付き添いを希望」の割合は、26.6% (n = 379/1,427)、子ども病院52.2% (n = 258/494)、それ以外の病院19.9% (n = 265/1,335)だった。

図表22 付き添い入院希望の有無 (n=3,282)



## ■ 付き添いを希望した理由

付き添いを「希望した」910人に対し、その理由を3つの選択肢で尋ねると「子どもが一人であるのはかわいそうだった」と思った」82.4% (n=750/910)、「子どもが小さくて世話が必要だった」59.9% (n=545/910)、「自宅から遠くて通うのが大変だった」20.2% (n=184/910)という回答であった。



「その他」として具体的に記入された内容のうち、代表的なものを挙げると以下のとおりである。

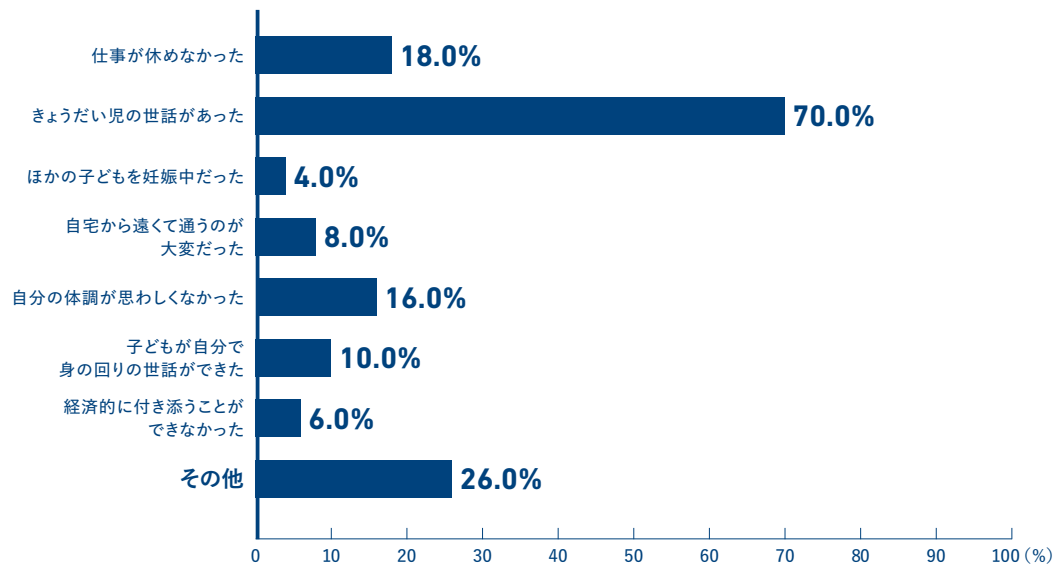
- 医療ミス、医療トラブルを防ぐため（多数）。
- 障害、気管切開等により子ども自身によるコミュニケーションが困難なため（多数）。
- 子どもの希望、子どもの精神的安定のため（多数）。
- 一緒にいたかった、そばで経過をみたかった（多数）。
- 病院／看護師に不信感があった、安心してまかせられない（多数）。
- 付き添うのが当たり前という雰囲気だった（多数）。
- コロナ禍のため面会が制限され、付き添いをしないと会えなかった（多数）。
- 授乳のため（多数）。
- （付き添いをしないと）排泄や清拭などのケアを毎日行うことができないといわれた。

子どもの年齢区分別にみても、ほぼ同様の傾向であった。

## ■ 付き添いを希望しなかった理由

付き添いを「希望しなかった」50人についてその理由をみると、「きょうだい児の世話がいった」70.0% (n=35/50) の割合が最も高かった。そのほか、仕事18.0% (n=9/50)、体調16.0% (n=8/50) などの理由も挙げられた。

図表24 付き添いを希望しなかった理由 (n=50) 複数回答



「その他」として具体的に記入された内容のうち、代表的なものを挙げると以下のとおりである。

- コロナ禍で付き添いを開始すると24時間病院から出られなくなる。
- 大変すぎる、身体がきつい、体調が悪くなる など。

子どもの年齢区別に大きな違いはみられなかった。

## ■ 病院からの付き添い要請の有無

病院から付き添い入院の要請があったかどうかについては、「要請された」79.1% (n = 2,596 / 3,282)、「要請されていない」20.9% (n = 686 / 3,282)であった。

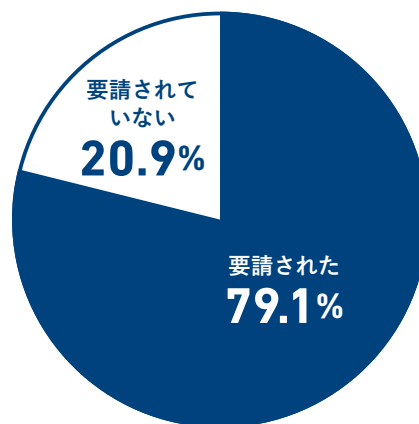
年齢3区分別に「要請された」という回答の割合をみると、乳児（1歳未満）85.8% (n = 915 / 1,067)、幼児（1歳～6歳未満）80.5% (n = 1,304 / 1,619)、児童（6歳以上）63.3% (n = 377 / 596)だった。

病院の種別にみると「付き添いを要請された」割合は、大学病院80.4% (n = 1,147 / 1,427)、それ以外の病院85.8% (n = 1,146 / 1,335)で高く、子ども病院では57.3% (n = 283 / 494)であった。

付き添いの形態別にみると、「付き添い入院のみ」の83.1% (n = 2,171 / 2,614)、「付き添い入院と面会の両方」の63.6% (n = 425 / 668)で付き添いを要請されている。

入院の時期（コロナ禍以前か以後か）別で、傾向に違いはなかった。

図表25 病院からの付き添い要請の有無 (n=3,282)



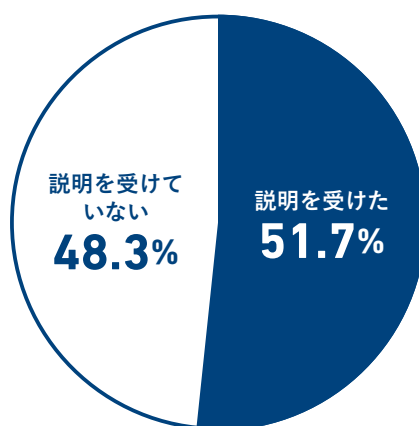
### ■ 付き添いの理由についての説明の有無

付き添い入院していた人のうち、泊まり込んで付き添う理由について説明があったかどうかについては、「説明を受けた」51.7% (n = 1,697 / 3,282)、「説明を受けていない」48.3% (n = 1,585 / 3,282)であった。

子どもの年齢区分別に大きな違いはみられなかった。病院の種別でも入院の時期別（コロナ禍以前か以後か）でも傾向に大きな違いはなかった。

病院からの付き添い要請の有無と、理由の説明有無の関連をみると、付き添いを要請された2,596人のうち、付き添い理由の説明を受けたのは57.7% (n = 1,497 / 2,596)、受けていないのは42.3% (n = 1,099 / 2,596)であった。付き添いを要請されていない686人のうちで、付き添い理由の説明を受けたのは29.2% (n = 200 / 686)、受けていないのは70.9% (n = 486 / 686)であった。

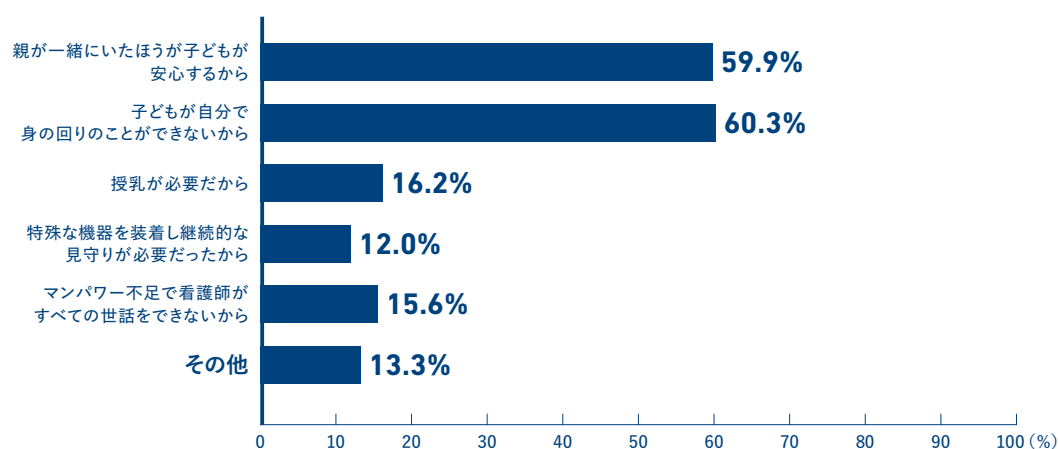
図表26 付き添いの理由についての説明の有無 (n=3,282)



## ■ 付き添いについて説明された内容

病院から付き添いの理由について説明を受けた1,694人に対し、どのような説明を受けたのか複数回答で尋ねると、「子どもが自分で身の回りのことができないから」60.3% (n = 1,021 / 1,694)、「親と一緒にいたほうが子どもが安心するから」59.9% (n = 1,014 / 1,694)の割合がともに高かった。「マンパワー不足で看護師がすべての世話をできないから」も15.6% (n = 264 / 1,694) 見られた。また入院児の事情に関連し「授乳が必要だから」16.2%、「特殊な機器を装着し継続的な見守りが必要だったから」12.0% (n = 203 / 1,694) という回答もあった。

図表27 付き添いについて説明された内容 (n=1,694) 複数回答



「その他」として具体的に記入された226件のうち、代表的な内容を挙げると以下のとおりである。

- 一定年齢（18歳未満、小学6年生以下、未就学児、小さい子ども…等）は付き添い必須といわれた（多数）。
- 病院の決まり、原則だから（多数）。
- 退院後在宅で医療的ケア、食事療法、リハビリ等ができるように練習・準備するため（多数）。
- コロナ禍で病院への出入りが禁止のため、付き添い入院（病院を出られず）か退院まで面会なしかの二者択一だった（多数）。
- 発作の状態の見守り、記録が常時必要（5人程度）。

子どもの年齢区分別にみると、「親と一緒にいたほうが子どもが安心するから」は、乳児（1歳未満）51.0% (n = 283 / 555)、乳児（1歳～6歳未満）62.3% (n = 519 / 834)、児童（6歳以上）69.5% (n = 212 / 305) と年齢があがるほどやや割合が上昇した。「子どもが自分で身の回りのことができないから」は、乳児61.3% (n = 340 / 555)、幼児67.4% (n = 562 / 834)、児童39.0% (n = 119 / 305) と幼児が最も高い。「授乳が必要だから」は乳児で40.9% (n = 227 / 555) があてはまると回答した。

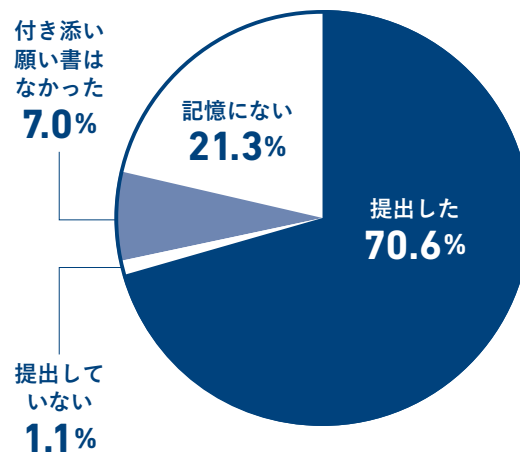


## ■ 付き添い願い書提出の有無

付き添い入院する際に、付き添い願い書（付き添い入院を申請する書類）に署名し、提出したかどうかについて尋ねると、70.6%（n=2,317/3,282）が「提出した」と回答した。「提出していない」は1.1%（n=37/3,282）、「付き添い願い書はなかった」7.0%（n=229/3,282）という回答もあり、「記憶にない」も21.3%（n=699/3,282）みられた。

付き添い願い書を提出した割合について、年齢区分別に大きな違いはなかった。病院からの付き添い要請有無別、病院の種別でも大きな違いはみられなかった。

図表28 付き添い願い書提出の有無  
(n=3,282)



## 11 付き添い者の状況

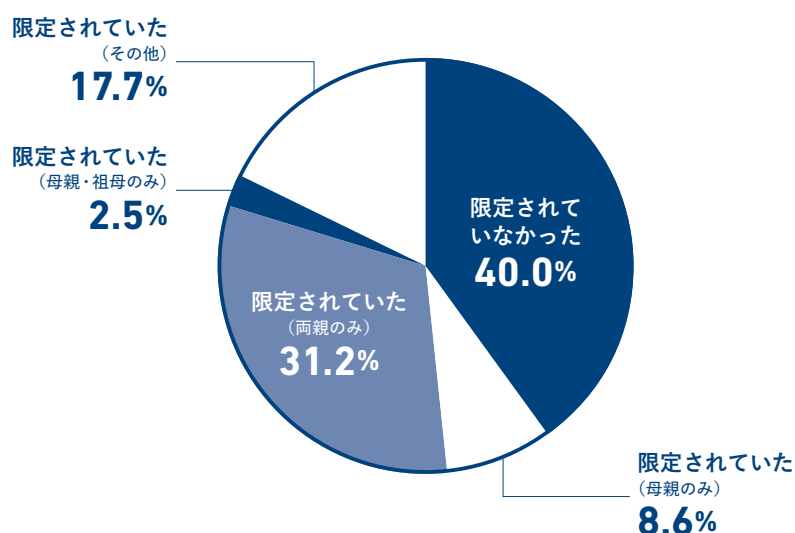
### ■ 付き添い者限定の有無

付き添い入院中に病院から付き添い者が限定されていたかどうかについて尋ねると、「限定されていなかった」割合が最も高く、40.0% (n = 1,312 / 3,282) だった。次いで、「限定されていた (両親のみ)」31.2% (n = 1,025 / 3,282) が続いた。付き添い者を女性に限定している割合はそれほど高くなく、「限定されていた (母親のみ)」8.6% (283 / 3,282)、「限定されていた (母親・祖母のみ)」は2.5% (82 / 3,282) だった。

病院の種別に見ると、大学病院やそれ以外の病院の約半数は、付き添い者を限定していなかった。子ども病院では「限定されていなかった」割合が低く、「両親のみと限定されていた」割合が高い。

また、コロナ前 (2019年12月以前) とコロナ後 (2020年1月以降) にわけてみると、「付き添い者が限定されていなかった」割合は、コロナ前64.3% (n = 346 / 538) からコロナ後44.6% (n = 966 / 2,164) に低下していた。「両親のみと限定されていた」はコロナ前24.7% (n = 133 / 538) からコロナ後41.2% (n = 892 / 2,164)、「母親のみと限定されていた」はコロナ前7.6% (n = 41 / 538) からコロナ後11.2% (n = 242 / 2,164) に上昇していた。

図表29 付き添い者の限定の有無 (n=3,282)



## ■ 主な付き添い者

付き添い入院中の主な付き添い者は、「入院児の母親」が95.1% (n = 3,122 / 3,282) と圧倒的に高い割合を占めた。「入院児の父親」は2.3% (n = 75 / 3,282) であった。

## ■ 付き添いを交代してくれる人

付き添い入院中に交代してくれる人がいたかどうか、いた場合は誰だったかを複数回答で把握すると、「交代者はいなかった」28.6% (n = 938 / 3,282)、「交代できなかった」22.2% (n = 730 / 3,282) であった。

交代者のいる場合、「配偶者・パートナー」42.6% (n = 1,399 / 3,282) の割合が最も高く、「回答者の実母」9.7% (n = 319 / 3,282)、「回答者の義母」3.9% (n = 129 / 3,282) がこれに次いだ。

コロナ前（2019年12月以前）とコロナ後（2020年1月以降）にわけてみると、「交代できなかった」割合は、コロナ前7.1% (n = 43 / 607) からコロナ後26.6% (n = 687 / 2,582) へと上昇していた。

図表30 付き添いを交代してくれる人 (n=3,282) 複数回答

